

# 2-2

## 法人全体で虐待防止のために取り組んだ事

虐待が起こらないための組織風土づくり！

虐待防止委員会

情報の共有

特別養護老人ホーム 白楽荘

生活相談員・池田俊二

軽費老人ホーム 偕楽荘 岡 靖晃

東京都多摩市山王下1丁目18番地2

TEL 042-376-1811

E-mail shibata@rakuyuukai.com

FAX 042-371-1562

URL <http://www.rakuyuukai.com>

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要

社会福祉法人楽友会が母体である特別養護老人ホーム白楽荘は昭和49年7月に開設。定員150名、短期入所10名の大規模な高齢者介護福祉施設です。多摩の景色を一望できる高台にあり、お部屋の窓からは多摩一面が広がります。

### 〈取り組んだ課題〉

昨年8月に起きた虐待事件を当法人でも重大なことと受け止め、それまで当たり前に行なってきた介護や支援内容を見直すこと、また虐待についての知識を深めることによって、法人内で絶対に虐待に繋がるようなことを起こさないという強い意思を法人内に徹底する。

#### 【それまでの現状】

- ・虐待を身近なものとして認識されていなかった。
- ・虐待とは何か、どこまでが虐待にあたるのか各セクションでばらつきがあった。
- ・人権擁護についての研修や話し合いの機会が少なかった。
- ・法人全体での虐待についての意思統一が図れていなかった。
- ・利用者、ご家族への働きかけが少なかった。

### 〈具体的な取り組み〉

- ・事件発覚後直ちに理事長から虐待についての提言書を利用者、家族に文書として配布
- ・楽友会虐待防止委員会を法人内で立ち上げ、具体的な取り組みを検討。
- ・白楽荘家族会にて状況、取り組みの説明会を開催
- ・職員研修の開催。（高齢者虐待防止法）
- ・新人研修の開催。（人権擁護に関して）
- ・法人設置の心理カウンセラーの活用
- ・マニュアルの作成と検討
- ・サービスマナー委員会との連携により、セルフチェックの徹底。
- ・利用者、職員に対して虐待についてのアンケート実施
- ・家族ニーズアンケート実施

### 〈活動の成果と評価〉

- ・虐待防止委員会にて、まず「虐待とは何か」から開始したことにより、各セクションから意見が活発に行なわれ、虐待について深く意識するようになった。
- ・アンケートを実施した結果、職員の抱えている問題の把握、利用者が感じる虐待とはについて把握できた。
- ・特別養護老人ホーム、デイサービス等在宅部門、軽費老人ホームとの連携と情報の共有化が図れるようになった。
- ・職員の意識の中に「人権擁護」「虐待」を植え付け、常に利用者本位のサービス提供が第一義であることが浸透した。
- ・新人職員に対して、心理カウンセラーとの面談から、介護での不安や意欲低下が軽減された。
- ・家族からの率直な意見や苦情が前よりも上がるようになり、それに対して即対応でき、改善が図れるようになった。

### 〈今後の課題〉

- ・作業優先ではなく、利用者ニーズを優先した介護業務への業務見直し。
- ・職員のストレスマネジメントに関する対策が急務。
- ・認知症利用者の理解と対応に関する検討。
- ・ケアプランの精査と評価
- ・年間スケジュールの作成
- ・施設内研修の強化

### 〈参考資料など〉

- ・東京都虐待防止パンフレット
- ・虐待に関するアンケート（生活相談員研修委員会）
- ・高齢者虐待防止法
- ・生活相談員業務指針